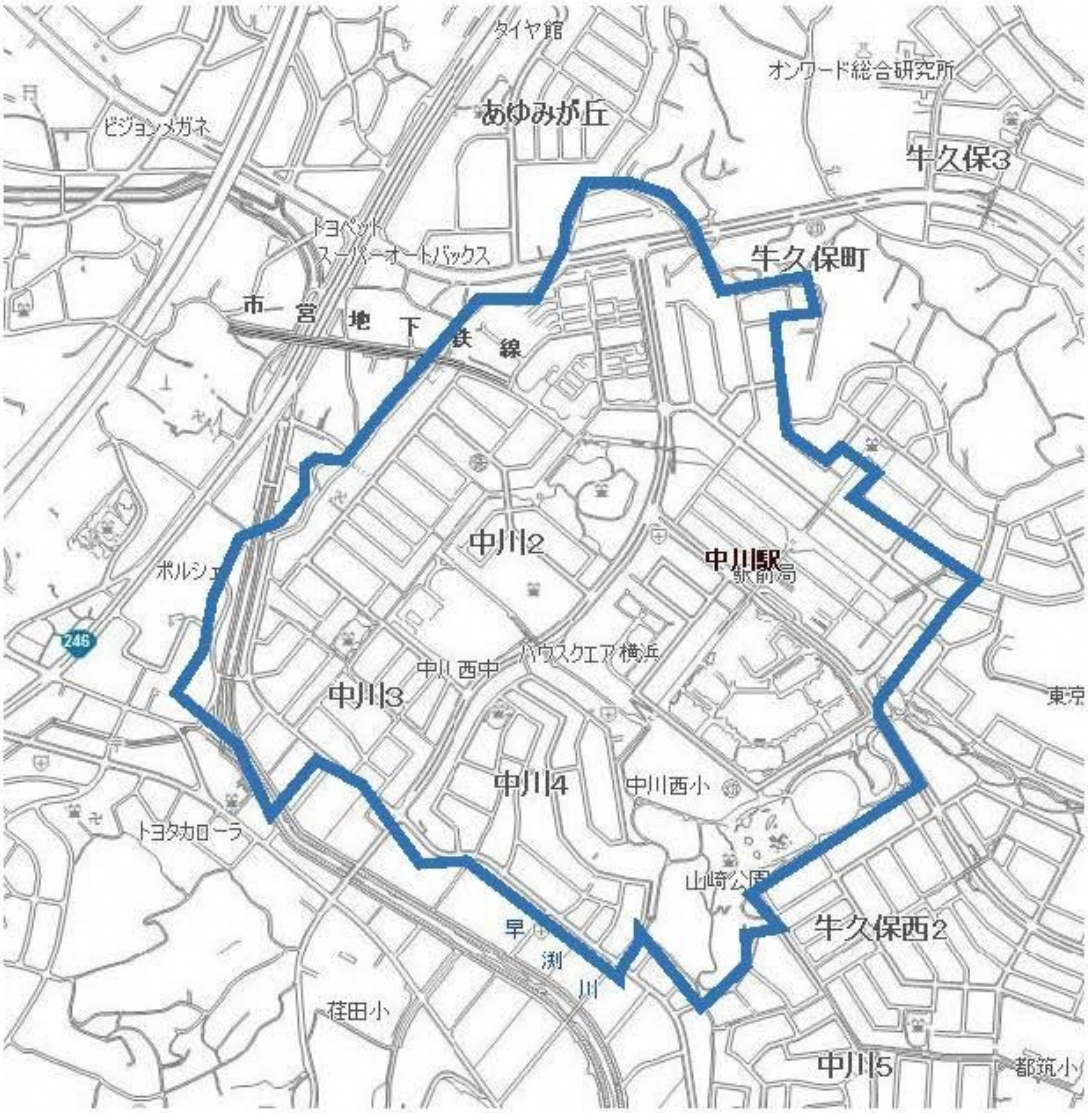
中川西地区　地域緑化計画書

計　画　名：早渕川・老馬谷ガーデンを中心とした緑と水と歴史をつなぐ散歩道づくり

推進団体名：中川緑と水と歴史をつなぐ会（略称 NGWH 会）

この地域緑化計画書は、公開します。

地区の範囲


タイヤ館
オンワード総合研究所
ビジョンメガネ
あゆみが丘
牛久保3
トヨペット
スーパーオートバックス
牛久保町
市
宮
地
下
鉄
線
中川2
中川駅
駅前局
ポルシェ
246
ハウスクエア横浜
中川西中
中川3
東京
中川4
中川西小
トヨタカローラ
山崎公園
牛久保西2
早
渕
川
荏田小
中川5
都筑小

計画期間	令和４年度　～　令和６年度
計画の目標	《提案計画の目標》 地域に愛される回廊「緑と水と歴史をつなぐ散歩道」づくり
	＜具体的な目標＞ **目標１：緑と水と歴史をつなぐ交点に当たる早渕川・老馬谷ガーデン（HRG）の緑を増やし、魅力をアップする** ・「第 33 回全国都市緑化よこはまフェア」のレガシーとして、HRG の緑を増やし魅力アップする。 **目標 ２：中川駅から早渕川・老馬谷ガーデンまでの道沿いに花と緑のゾーンを作る** ・中川駅と住宅地を結ぶ歩行者専用道路（歩専道）を中心に緑を増加し、まちを美化する。 **目標３：回廊を取り巻く中川西町内会エリアの住宅を緑化する** ・地域住民へ緑化活動への参加を呼びかける。 **目標４：地域のつながり、地域活動の担い手の育成に取り組む**
課題及び背景	**（背景）** ・HRG を中心とした地域の大半は、緑の多い港北ニュータウンとして開発された。その後、中心となる中川駅周辺は「ヨコハマ市民まち普請事業」による花と緑のまちづくり、早渕川沿いには「第 33 回全国都市緑化よこはまフェア」開催時に市民・大学・都筑区の協力で完成した HRG のように、住民参加のまちづくりが行われてきた。 ・この早渕川沿いには、旧大山街道、農業地帯もある歴史と昔の風景が残っている。 ・これらの地域の魅力を HRG 中心に緑で繋ぎ、地域に愛される回廊「緑と水と歴史をつなぐ散歩道」を作ることを地域で検討し構想化した。 **（緑の課題）** 「緑と水と歴史をつなぐ散歩道」づくりを検討する過程において、下記の課題が明らかになった。 ① HRG を全国都市緑化よこはまフェアのレガシーとして改善を進める必要がある。 ② 港北ニュータウンで作られた歩専道の植栽が雑草に覆われ欠損している。 ③ 早渕川沿い斜面地の住宅地は、擁壁が多く、緑を増やすと景観がよくなる。 ④ 地域住民にまちの緑の素晴らしさを伝え、新たに住民を巻き込んで、地域全体で緑の維持・発展していく必要がある。
課題解決及び効果	① HRG の緑を増やすことは早渕川沿いを歩く楽しみを増加させるばかりでなく、高いコンクリート擁壁の緑化によって、川と丘の上の住宅街の緑を結び付けて緑の景観を創出することが可能となる。 ② 中川駅、住宅地、早渕川を結び、通学、買い物に使われる歩専道に美しい緑を復活させることは、地域の価値を高める。 また、この活動に住民が参加することにより、土木事務所任せの緑の環境維持から、行政と住民の協業で緑のまちをつくる体制ができる。 ③ 早渕川沿い斜面地に作られた住宅地の景観が、HRG 擁壁緑化、自宅の擁壁緑化により、緑多き風景に変わる。 ④ 散歩道を取り巻く中川西町内会全体で自宅の緑化活動に取り組むことは、「緑のまちをつくり、地域の価値をあげる」という地域共通の目標につながる。

組織づくり	このプロジェクトを推進する「中川緑と水と歴史をつなぐ会」（つなぐ会）には、下記の団体が参加し、つなぐ会は、全体のマネージメント、イベント等を行い、目的の達成を図る。 ・HRG 運営会（HRG の緑化） ・新組織「つなぐ会ハマロードサポーター」の立ち上げ（歩専道の緑化維持） ・中川西中学校おやじの会（中川西中学校の緑化維持） ・中川西町内会（民家緑化の推進、地域への広報、資金援助） ・NPO 法人ぐるっと緑道（地域への広報、資金集め、事務局）
計画期間中の緑化整備及び活動の概要について	＜民有地緑化＞ １．HRG の緑を増やし、魅力アップする。 ① 道路沿いの擁壁をつる植物により緑化する。 ② 道路際の鉄パイプフェンスをつる植物と植栽で緑化する。 ③ 植物をからませたパーゴラを設置し、緑につつまれた潤いのある空間を作る。 ２．中川駅から HRG までの道沿いに花と緑のゾーンを作る。 ① 地域の参加で、歩行者専用道路の植樹帯に植栽し花壇を作る。 ② 中川西中学校の歩専道沿いの土地を学校と協力して、緑化をする。 ③ 散歩道の交点にガーデンまたはシンボルツリーを作る。 ３．中川西町内会エリアの民家玄関にプランター設置、擁壁緑化の呼びかけを行い、地域全体で緑のまちづくりを行う。
	＜地域緑化活動＞ ４．活動への参加が地域のつながりをつくり、活動を維持する契機となる。 ① 緑化整備した花壇、プランターの植替え等をイベントとして開催する。 ② 担い手を育成するため、植栽管理の研修会を実施する。 ③ メンバーが使用するビブス等を作成し、活動の PR を図る。 ④ 広報紙を年 3 回発行し、活動と散歩道の PR を行う。
計画期間終了後の活動について	・計画期間終了後は、エリア毎の担当組織である HRG 運営会、つなぐ会ハマロードサポーター、中川西中学校おやじの会が緑の維持活動をしていく。 ・当該各代表者とぐるっと緑道、中川西町内会が参加する「中川緑と水と歴史をつなぐ会」は、「緑と水と歴史をつなぐ散歩道」を中心テーマにして、地域の緑、早渕川、歴史の魅力を広報宣伝するとともに、イベントを開催することでエリアに親しんでもらう。また、地域活動に参加する人を増やし、「団体連絡会」などを開催することで地域団体のつながりを強化していく。さらに、プロジェクトの状況を毎年レビューし、地域にフィードバックし、その維持と今後の活動の継続に繋げていく。
資金計画	（資金の捻出） ・自宅緑化の自己負担分は、原則として、整備場所の所有者の負担で実施する。 ・公用地の緑化にかかわる費用は以下で賄う。 ① 町内会、企業、個人から寄付を募る。 ② 地域で開催するイベント参加費の一部を経費に充てる。 ・住民参加型の活動を主体として、できるだけコストを抑える。 （計画終了後資金捻出） ・個人と団体の寄付及び地域イベント収益金を運営資金に充てていく。 ・本会主催のイベント参加費、手作り品や収穫物の販売の収益なども資金源にする。

計画年次	計　画　内　容
１年度目 （令和４年度）	１．民有地緑化 （設計等経費） 「HRG 擁壁花壇」の緑化整備のための設計・工事監理 （緑化整備等経費） ①HRG 擁壁花壇づくりと植え込み(図 1-①) ②ビオトープの緑化(図 1-その他) ③中川西中学 30 周年事業で散歩道沿いユキヤナギ植え込み(図 2-(1)-①) ④住民参加で歩専道の植栽植え込み(図 2-(2)-④) ⑤町内会館など自宅の緑化の先行モデル事例づくり(図 3-(1)-②、③) ２．地域緑化活動 ①楽しい活動、一体感、PR 効果をもたらすシンボルマーク(ロゴ)やビブス等購入、 ②花植え/植木講座の開催(年 3 回) ③広報紙発行(年 3 回) ④緑化維持備品の購入
２年度目 （令和５年度）	１．民有地緑化 （設計等経費） 「HRG 藤棚作り」の緑化整備のための設計・工事監理 （緑化整備等経費） ①HRG パーゴラを設置し、藤等のつる性植物の植え込み(図 1-③) ②住民参加で歩専道の植栽植え込み(図 2-(2)-④) ③道しるべ 寄植えのコーナーづくり(図 2-(2)-⑤) ④旧大山街道ユキヤナギの捕植(図 2-(2)-④) ⑤自宅の緑化(図 3-(1)-②、③) ２．地域緑化活動 ①花植え/植木講座(年 3 回) ②広報紙発行(年 3 回) ③緑化維持備品の購入
３年度目 （令和６年度）	１．民有地緑化 （設計等経費） 「HRG 鍛冶橋ロオベリスク、子ども草地エリアづくり」の緑化整備のための設計・工事監理 （緑化整備等経費） ①HRG 鍛冶橋ロオベリスク(図 1-④) ②鉄パイプフェンスの緑化(図 1-②) ③子ども遊びエリア(図 1-⑤) ④コミュニティ道路街路樹跡の植樹(図 2-(2)-④) ⑤自宅の緑化(図 3-(1)-②、③) ２．地域緑化活動 ①花植え/植木講座(年 3 回) ②広報紙発行(年 3 回) ③堆肥づくりエリアの改善
創意工夫	・「都筑区まちづくりプラン」の地域版である「中川まちづくりプラン」の具現化を図る提案である。 ・地域資産を活かし、愛される回廊づくりをテーマ中心に据えた緑化計画である。 ・地域の目標を「緑の景観」とし、価値を高め、つながりを強める活動である。 ・住民、大学、中学校、保護者及び都筑区が協力して緑化を進める活動である。

HRG を中心とした緑と水と歴史をつなぐ散歩道づくり

中川緑と水と歴史をつなぐ会

1. 早渕川・老馬谷ガーデン(HRG) の緑を増やし、魅力をアップする

① 道路沿いの擁壁をつる植物により緑化する

擁壁下に部分的に新規花壇を作り、常緑の登攀性つる植物で擁壁を緑化する。
低木と多年草の植栽を施す。

② 鉄パイプフェンスをつる植物で緑化する

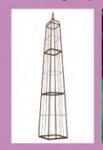
単管パイプには、ネット装着の上常緑つる植物を誘引する。

③ 植物をからませたパーゴラを設置し、緑につつまれた潤いのある空間を作る

中央テラスに植栽マス併設のパーゴラを設置する、

④ 鍛冶橋入口をアピールできるよう改善する

散歩道のエントランスシンボルとなる植物を絡ませたオベリスクを建てる。



⑤ 草地など子供が遊んだり、学んだり使って楽しむエリアを作る

草地内に見切り材でミステリーサークル状に花（ナノハナ・ヒマワリなど）の迷路をつくる。

対象地域：中川 1～4 丁目の市街化区域および青葉区荏田町の一部

緑と水と歴史をつなぐ散歩道

- オレンジ系道路 = 自転車歩行者専用道路
  駅・学校・買い物に車に出合わずに歩いて行かれる
- コミュニティ道路
  通過交通のない住宅地のなかの一番身近な道。安全でコミュニティの様々な活動をはぐくむ
- 旧大山街道
  最盛期の江戸中期宝暦年間（1751–64）には年間20万人が大山詣りをしたといわれる

2.3. 中川駅からHRGまでの道沿いに花と緑のゾーンを作り、地域全体で緑のまちづくりを行う

(1) 道路沿いの民有地の緑化を提案する

① 学校用地斜面地の緑化

中学校斜面地は、30 周年記念として低花木を植樹する。

② 個人宅擁壁の緑化

お勧めしたい懸垂する植物や、登攀する植物の苗を配布する。

③ 個人住宅の緑化

一般道に面した個人宅に、この事業のテーマに即した苗の取り合わせのサンプルを提示し、鉢、或いは地植え、プランターで道沿いを緑化してもらう。

(2) 歩専道、コミュニティ道路の植栽マスの緑化

④ 欠損部の補植

周囲の植栽と併せた 低木を補植し、歩専路植樹帯の緑を復活する。

⑤ 道しるべ

自転車歩行者専用道路や、コミュニティ道路の一角に、散策路を想起させる寄植えのコーナーを設ける。

概算事業費（単位：千円）（注1,5）

助成項目	細目	1年度目（令和４年度）	2年度目（令和５年度）	3年度目（令和６年度）	項目ごとの合計	※【参考】 助成率・助成金額の上限
1　民有地緑化	①設計等経費	500	500	200	1,200	100%以内
		（主な内容） 「HRG擁壁花壇」の緑化整備のための設計・工事監理	（主な内容） 「HRG藤棚作り」の緑化整備のための設計・工事監理	（主な内容） 「HRG鍛冶橋ロオベリスク、子ども草地エリアづくり」の緑化整備のための設計・工事監理		
	②緑化整備等経費 （注2）	5,000	5,020	2,750	12,770	90%以内
		（主な内容） ①HRG擁壁花壇（図1-①） ②HRGビオトープの緑化（図1-その他） ③西中30周年記念植樹（図2-(1)-①） ④歩専路植栽桝の緑化（図2-(2)-④） ⑤自宅の緑化（図3-(1)-②,③）	（主な内容） ①HRG藤棚作り（図1-③） ②歩専路植栽桝の緑化（図2-(2)-④） ③歩専路道標シンボルツリー（図2-(2)-⑤） ④旧大山街道ユキヤナギ植樹（図2-(2)-④） ⑤自宅の緑化（図3-(1)-②,③）	（主な内容） ①HRG鍛冶橋ロオベリスク（図1-④） ②HRG鉄パイプフェンスの緑化（図1-②） ③HRG子ども草地エリアづくり（図1-⑤） ④自宅の緑化（図3-(1)-②,③）		
	合計額 （注9）	概算事業費 5,500	5,520	概算事業費 2,950	13,970	
		（助成見込額） (5000)	**（助成見込額） (5018)**	**（助成見込額） (2675)**	**12,693**	
2　景観木保全	①調査費	0	0	0	0	100%以内
	②診断書作成費	0	0	0	0	100%以内 （上限20千円/本）
	③治療費	0	0	0	0	③と④は各景観木1本につき、合計50千円以内 100%以内 （上限50千円/本）
	④環境整備費	0	0	0	0	100%以内 （上限50千円/本）
	合計額 （注9）	概算事業費 0	概算事業費 0	概算事業費 0	0	
		（助成見込額） (0)	**（助成見込額） (0)**	**（助成見込額） (0)**	**0**	
3　地域緑化活動 （注3）	①維持・管理費	255	380	320	955	①～④の合計 1,000千円以内 ／年度 100%以内
	②広報・研修費	445	320	280	1,045	100%以内
	③事務費	60	60	60	180	100%以内 （上限100千円/年度）
	④諸雑費	40	40	40	120	100%以内 （上限40千円/年度）
	合計額 （注9）	概算事業費 800	概算事業費 800	概算事業費 700	2,300	
		（助成見込額） (800)	**（助成見込額） (800)**	**（助成見込額） (700)**	**2,300**	
年度ごとの合計 （注4,6,7,8）		概算事業費 6,300	概算事業費 6,320	概算事業費 3,650	総合計 16,270	助成見込額の３年度の総合計が15,000千円以内
		（助成見込額） 5,800	**（助成見込額） 5,818**	**（助成見込額） 3,375**	**14,993**	

（記入時の注意事項）
注1：各細目には、提案計画の助成金と自己負担金を含めた概算事業費（予定金額）を記入してください。計画がない項目や細目は、0（ゼロ）を記入してください。
注2：民有地緑化の緑化整備等経費には、最低10%の自己負担金が必要となります。（助成金申請時に、自己負担金が用意できることが助成金交付の要件となります。）
注3：地域緑化活動の助成項目では、１年度につき1,000千円が助成金額の上限となります。
注4：民有地緑化、景観木保全、地域緑化活動の助成金の合計は３年度で15,000千円が助成金額の上限となります。
注5：千円単位で記入してください。（なお助成金額は、千円未満切り捨てとなり、端数は自己負担金となります。）
注6：本概算事業費の年度ごとの合計金額を上回る助成金の申請はできません。
注7：年度ごとの概算事業費を作成することとし、年度間での助成金のやりとりはできません。（年度ごとに助成事業を完了させる必要があります。）
注8：上限内での年度ごとの項目内における、細目間での事業計画の見直しは、可能です。（２年度の地域緑化活動における維持管理費を増やし、その分の広報研修費を減らすなど）
注9：各項目内における細目の合計欄には、概算事業費（予定金額）と、助成見込額の合計を記入してください。なお、助成見込額には、（）を付けてください。